

せん定が簡単で早期成園化が可能な クリ「ぼろたん」の主幹形密植栽培法

加熱することで渋皮が剥けるニホングリ「ぼろたん」はその特徴から消費者、生産者からの期待が高く急速に導入面積が拡大しています。

しかし、「ぼろたん」は直立性が強く樹冠が広がりやすく、幼木期に整枝を進めると収量が上がらないことがわかってきました。

そこで、初心者でも簡単に整枝と、側枝・結果枝の更新せん定ができ、初期収量が高く、大粒なクリの栽培が可能な主幹形密植栽培法を開発しました。

☆技術の概要

- 「ぼろたん」の新しい栽培法は株間 2.5m×畝間 4.0m、100 本/10a の密植（慣行栽培 5m×5m、40 本/10a）とし、主幹から直接結果母枝を取る主幹形とします。密植栽培のため、初期収量が多くなります(図 1)。枝は果実を 2 年間結実させた 3 年生で更新することになります(図 2)。
- 結果母枝を 45° ~90° に誘引すると 3L(果の長径 39 mm以上)以上の比率が上昇します(表 1)。しかし、結果母枝誘引には 1 分/本程度の時間がかかり、90° 誘引は、誘引本数が多くなるため、その分作業時間は多くなります。
- 結果母枝基部の太さ(基部より 5 cm上の長径)と雌花数には相関関係があり、せん定時には 7 mm以上の枝を残すようにします。また、先端部の太さ(先端から 3 節目)が 4 mm未満の枝は花芽が少ない割合が多いため、4 mm以上の枝を結果母枝とし、4 mm未満の枝は切戻して予備枝とします。
- 前年結果した枝は安定して雌花芽着生し、基部径 6~10 mmでは前年結果していない枝より雌花の着生は多く、そこから発生した新梢も徒長しないため、結果母枝として積極的に活用します。

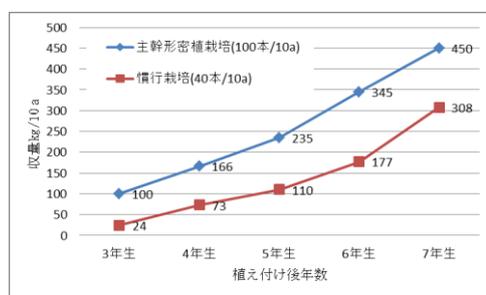


図 1 収量の年次変化の比較

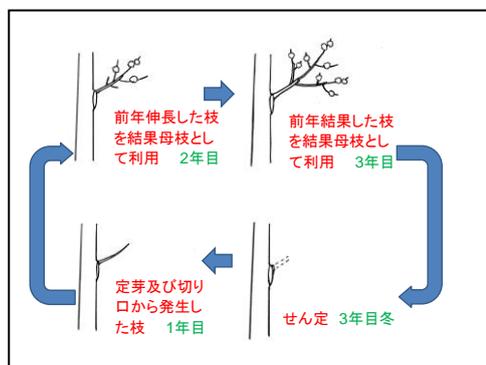


図 2 主幹形の枝の更新サイクル

区	調査本数	粒数/1樹	平均粒重	収量g/1樹
45度誘引	23	87	24.8	2157
90度誘引	23	105	25.9	2716
誘引無	19	108	23.6	2543

1年目の結果枝を設定角度で重ならないように誘引

表 1 誘引角度と収量の比較

☆活用面での留意点

- 基部径が 7 mm以上の枝が少ない場合は、5 mm以上の枝を多めに配置し、雌花芽の確保を図ります。
- 詳細については、埼玉県農業技術研究センター（電話：0480-21-1113、電子メール：k360311@pref.saitama.lg.jp）にお問い合わせください。

（農研機構 果樹茶業研究部門 企画管理部 果樹連携調整役 和田 雅人）